

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第三中学校 第3学年、全生徒
実施生徒数（ 165人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

- ア 教科は、国語及び数学及び理科。
- イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。
- ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「生徒アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の生徒が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布は全国の状態とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層から下位層の分布が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 65／泉佐野市 72／大阪府 75／全国 76.1）

「B区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布は全国の状態とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層から下位層の分布が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 48／泉佐野市 55／大阪府 59／全国 61.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えることは概ねできている。 7一 場面にあてはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナイカダ） (84.2/87.3) ○接続詞の働きについて理解することは概ねできている。 7二 「それでは」の働きとして適切なものを選択する (80.6/88.4) ○文脈に即して漢字を正しく読むことは概ねできている。 8二1 漢字を読む（模型を作る） (93.3/95.7) 8二2 漢字を読む（池の水が凍る） (95.2/97.8) 8二3 漢字を読む（技を磨く） (97.0/98.1) ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて、概ねできているものと課題があるものがある。 8三イ 適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ<u>習性</u>をもつものがある） (85.5/91.0) 8三キ 適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。<u>一方</u>、妹は一人で本を読むことが好きだ） (88.5/95.2) 8三エ 適切な語句を選択する（彼は<u>せき</u>を切ったように話し始めた） (25.5/29.2) 8三オ 適切な語句を選択する（意見の折り合いを<u>つける</u>） (46.1/61.8) 8三カ 適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、<u>ひとえ</u>に母のおかげです） (49.1/65.4)	○慣用句の意味を理解することは概ねできている。 8四1 「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する (87.3/94.7) ○目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。 8四2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く (14.5/22.3) ○行書の基礎的な書き方を理解して書くことに課題がある。 8五 作品への助言として適切なものを選択する (38.8/54.4) ○古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることは概ねできている。 8六1 『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく） (82.4/91.1) ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。 8六2 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし） (46.7/63.0) 【書くこと】 ○書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成することは概ねできている。 2一 図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する (80.6/89.5) ○書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することに課題がある。 4一 意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する (43.0/62.8)

【話すこと・聞くこと】 ○話し合いの話題や方向を捉えることに課題がある 6一 話し合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する (45. 5/72. 4)	○話し合いの話題や方向を捉えて的確に話すことに課題がある。 6二 話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く (36. 4/65. 8)
---	--

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【読むこと】 ○文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。 1一 グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する (31. 1/45. 9) ○文章の構成や展開について自分の考えをもつことに課題がある。 1二 複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する (43. 3/64. 3) 【書くこと】 ○目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。 1三 「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く (4. 3/13. 3)	○相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことに課題がある。 3三 話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く (35. 4/49. 2) 【話すこと・聞くこと】 ○全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題がある。 2三 ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する (39. 6/54. 6) ○話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することに課題がある。 2二 二人に続いてする質問を書く (73. 2/88. 3)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 「全くしない」と回答した生徒の割合	61.4	32.9	○	28.5

○中学生として習得しておくべき言語の知識面で課題がある。

○文章の内容を正確に把握し、それに即して、考えて記述する点に課題がある。

○設問の意味は理解しているが、自身の考えを文章表記する力に課題がある。

○読書に接する機会が全国と比べ課題がある。語彙や表現力を高められるよう読書の機会を増やしたい。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べて上位層がやや少なく、中位層がやや多い。

平均正答率（本校 54／泉佐野市 62／大阪府 65／全国 66.1）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層及び中位層がやや少なく、下位層に偏っている。

平均正答率（本校 32／泉佐野市 40／大阪府 46／全国 46.9）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学A	特徴がみられた設問
【数と式】 ○数直線上に示された負の整数を読み取ること は概ねできている。 1（1）数直線上の点が表示する負の整数の値を読み 取る (92.7/94.6) ○数量の大小関係を不等式に表すことに課題が ある。 2（1）「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物 4個の全体の重さは15 kg以上である」と いう数量の関係を表した不等式を書く (32.7/41.5) ○単項式どうしの除法の計算は概ねできている。 2（2）$6a^2b \div 3a$ を計算する (86.7/91.0) ○文字式に数を代入して式の値を求めることに 課題がある。 2（3）$a=3$、$b=-4$のときの式 $a-2b$ の値 を求める (63.0/78.5) ○具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を 用いて、目的に応じて変形することに課題があ る。 2（4）等式 $S=\frac{1}{2}ah$ を、aについて解く (32.1/48.2) ○方程式を解く場面における等式の性質の用い 方についての理解に課題がある。 3（1）一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際 に用いられている等式の性質を選ぶ (44.8/64.0) ○簡単な連立二元一次方程式を解くことに課題 がある。 3（3）連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く (63.0/80.0)	○着目する必要がある数量を見だし、その数量に 着目し、連立二元一次方程式をつくることに課題 がある。 3（4）連立二元一次方程式をつくるために着目す る数量を選び、式で表す (58.2/75.2) 【図形】 ○ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形で もあることを理解することに課題がある。 4（1）ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選 ぶ (51.5/67.1) ○半円を、その直径を軸として回転させると、球が 構成されることを理解することに課題がある。 5（2）半円の直径を軸として回転させてできる立 体の名称を書く (61.2/82.4) ○証明の必要性和意味を理解することに課題があ る。 8 対頂角は等しいことの証明について正しい記述 を選ぶ (37.0/45.5) 【関数】 ○比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解す ることに課題がある。 9（1）比例 $y=5x$ について、正しい記述を選ぶ (49.7/65.5) ○一次関数 $y=ax+b$ について、xの値の増加に伴 う yの増加量を求めることに課題がある。 11（1）一次関数 $y=2x+7$ について、xの値 が1から4まで増加したときの yの増加 量を求める (24.8/45.3)

○一次関数の意味を理解することに課題がある。 1 2 歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ (28. 5/36. 4) 【資料の活用】 ○多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解することに課題がある。 1 5 (1) 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ (23. 6/40. 2)	○表などを利用して、確率を求めることに課題がある。 1 5 (2) 大小2つのさいころを同時に投げるとき和が8になる確率を求める (55. 8/71. 3)
---	--

数学B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数と式】 ○事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することに課題がある。 2 (2) はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する (19. 6/37. 5) ○里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 5 (2) 通常料金を a としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する (1. 2/10. 4) 【図形】 ○証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことに課題がある。 4 (1) 証明されたことから、新たにわかることを選ぶ (38. 7/55. 4) ○発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことに課題がある。 4 (2) 平行四辺形 $ABCD$ の外側に2つの点 E, F を取っても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形となることの証明を完成する (19. 0/42. 4) ○付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することことに課題がある。 4 (3) 平行四辺形 $ABCD$ を正方形 $ABCD$ に変えたときの四角形 $EBFD$ がどのような四角形になるかを説明する (16. 6/42. 3)	【関数】 ○事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することに課題がある。 3 (1) 列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ (43. 6/67. 6) ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 3 (3) A 駅からの道のりが 6 km の地点において、列車 A が通ってから列車 E が通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する (6. 1/13. 2) 【資料の活用】 ○与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることに課題がある。 1 (2) 放送計画で、1日目が A, 2日目が B になる確率を求める (34. 4/ 43. 9) ○不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することに課題がある。 1 (3) 全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が、曲 F が選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する (19. 0/ 36. 2) ○与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。 5 (1) S 社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く (8. 6/16. 0)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	62.0	53.9	◇	8.1
数学の勉強は大切だと思いますか	70.5	83.6	○	13.1
数学の授業の内容はよく分かりますか	72.3	71.0		1.3
数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	68.0	70.3		2.3
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	32.0	38.7	◇	6.7
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	63.2	70.4	◇	7.2
今回の数学の問題について、解答や言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	89.1	95.1	◇	6.0

○数学の勉強は好きである生徒、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国を上回っている。

○全ての問題で全国、府の平均正答率を下回っており、特に、説明や記述問題などが大きく下回っている。

○単純な計算やイメージできる図形の問題はまだ理解出来ている。その一方で、証明や説明する問題では無解答率も高く課題である。

○パワーポイントで視覚化した授業により、板書時間の短縮を図り、演習問題に取り組む時間や個別指導の時間を確保することができた。その結果、定期テストで成果をあげた。しかし、今回の調査で成果が点数に反映されるまでには至っていない。

○対話を通して思考過程を共有するなどの授業改善が必要である。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 54／泉佐野市 61／大阪府 64／全国 66.1）

- ・主として「活用」に関する問題より、主として「知識」に関する問題の方が平均正答率は高かった。
主として「知識」に関する問題（本校 56／泉佐野市 65／大阪府 67／全国 67.9）
主として「活用」に関する問題（本校 52／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 64.9）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特徴がみられた設問
【物理的領域】 ○電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識に課題がある。 6（1）自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる（47.0/70.5） ○実験の結果を示した表から電流の値を読み取ること課題がある。 6（2）電流 自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる（58.5/77.2） ○オームの法則を使って、抵抗の値を求めることに課題がある。 6（2）抵抗 自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる（32.3/51.9）	【化学的領域】 ○ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘することに課題がある。 4（1）図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（49.4/73.4） ○アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けていることは概ねできている。 8（1）火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（84.1/83.5） 【生物的領域】 ○植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けていることは概ねできている。 9（1）部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（82.9/88.0）

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【物理的領域】 ○豆電球と豆電球型のＬＥＤの点灯の様子と電力との関係を指摘できることは概ねできている。 6（３）自転車のライトの豆電球型のＬＥＤが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる（82.3/91.4） 【化学的領域】 ○炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘することに課題がある。 4（２）図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（25.0/44.1） ○化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明することに課題がある。 4（３）図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（27.4/49.4） 【生物的領域】 ○無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用することは概ねできている。 2（１）理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる（80.5/86.2）	○１つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘することに課題がある。 2（４）理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる（28.7/61.3） 【地学的領域】 ○風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用することに課題がある。 3（１）コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（32.3/37.5） ○初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用することは概ねできている。 7（３）緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる（86.0/94.4） ○植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することに課題がある。 9（２）部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる（9.1/19.4）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	57.8	62.9	◇	5.1
理科の授業の内容はよく分かりますか	62.6	70.0	◇	7.4
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい と思いますか	25.9	22.2		3.7
理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に 説明したり発表したりしていますか	16.8	41.4	○	24.6
理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくら い行いましたか	11.4	87.1	○	75.7
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験 の計画を立てていますか	27.1	58.5	○	31.4
今回の理科の問題について、解答を文章などで書 く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと 努力しましたか	85.0	95.7	○	10.7

○理科の勉強は好きである生徒、理科の授業の内容は分かりやすいと思う生徒の割合が全国を下回っているが、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う生徒の割合は全国を上回っている。

○「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」という回答について、全国を大きく下回っており課題がある。そのため、「観察や実験」に関する回答は総じて低い。

○問題の領域別では、生物学的領域と地学的領域の平均正答率の方が全国との差が小さい。

○知識に関する問題において、平均正答率が全国を上回っている問題はあるが総じて全国より低い。また、選択式より、短答式の問題の方が全国との差が大きいことも課題である。

○活用に関する問題において、特に記述式の問題での平均正答率が低く、無回答率も高くなっている。理由や説明すること、新たな問題を見出し文章化することに課題がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 < 本 校 回 答 率 / 全 国 回 答 率 >
【家庭生活の様子】	○朝食を毎日食べている生徒の割合は、全国を下回っている。 ○同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合は、全国を下回っている。 ○地域の行事に参加することや社会等で起こっている問題や出来事に関心がある割合やボランティア活動に参加したことがある割合は全国を下回っている。 ○普段、1日当たり読書を全くしない生徒の割合は全国を上回っている。	○朝食を毎日食べていますか。 <75.9/91.9> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 <61.4/74.2> ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <27.8/45.6> ○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 <39.8/59.3> ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 「参加したことがある」 <32.5/51.8> ○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 「全くしない」 <61.4/32.9>
【家庭学習の様子】	○学校の授業時間以外に家や塾などで3時間以上勉強をしている割合は、全国を上回っている。しかし、30分未満の割合は全国を上回っている。 ○家で、自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は全国を下回っている。 ○家で学校の宿題や授業の予習、復習をしている生徒の割合は全国を下回っている。	○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） 「3時間以上」 <16.9/10.5> 「30分未満」 <23.5/12.8> ○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか <46.4/52.1> ○家で、学校の宿題をしていますか <75.9/91.6> ○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか <40.4/55.2>

【学校での 学習の様子】	○地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う割合は全国を下回っている。 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う割合は全国を下回っている。 ○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う割合は全国を下回っている。 ○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う割合は全国を下回っている。	○1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか $\langle 56.0 / 68.7 \rangle$ ○1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか $\langle 54.2 / 73.8 \rangle$ ○1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか $\langle 30.2 / 53.8 \rangle$ ○生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか $\langle 47.0 / 76.3 \rangle$
-------------------------	---	---

本校の取組

◎これまでの取組

5つの重点課題(①基礎学力の向上 ②家庭学習の定着 ③学力調査の分析による三中の課題 ④教員間における課題の共有 ⑤授業改善と各教科指導における指導と評価の一体化を設け、校内研修の充実(研究授業も含む)を図っている。

4年前よりメロディーチャイムを導入し、チャイム着席等の授業規律の徹底において顕著な成果が得られている。また、三中のめざす授業づくりを『授業 三中スタイル』として、授業改善に努めている。

学力向上委員会を核にして各分掌と連携しながら、毎年、各学期に行う教職員や生徒を対象にしたアンケートや全国学力学習状況調査及びチャレンジテストの結果を分析し、実態把握と課題の明確化及び、その改善に取り組んできた。

自ら学び取る生徒を育てる授業づくり 『授業 三中スタイル』

1. めあてを板書し、生徒の動機づけを図る
2. いきいき活動する場面がある(作業や書く、発表する、ペア・グループワークなど)
3. 考える場面がある
4. 静かに自分を振り返る、振り返り活動がある
5. ユニバーサルデザインの視点による授業設計

○『授業 三中スタイル』における授業改善の重点取組

- ① 「めあて」に対応した「振り返り」
 - ・「めあて」と「振り返り」のカードを黒板に貼り、生徒に意識化させる。
- ② 活動する場面(考える・書く・発表する・ペアやグループ活動)を充実させる。
 - ・各場面の活動にメリハリをつけ、集中させる(タイマーの活用など)。
- ③ 「書く」ことや対話を通した「表現する力」の育成
 - ・「書く」課題をテストにも出題し、指導と評価の一体化を図る。
 - ・対話場面の設定。
- ④ 基礎的な計算力の育成
 - ・「すうがく がんばりmath」の取組(基礎的な計算の練習問題と小テストの実施)。

○授業規律に関して、生徒指導部と連携して周知徹底を図っている。

「授業の受け方・大切にしたい9つのこと」及び、授業規律重点3項目と教職員間の申し合わせ事項

○指導と評価の一体化をめざした授業づくりの工夫

- ・「平成30年度 目標・評価規準の9教科一覧及び、家庭学習の手引き」の作成。
- ・評価の仕方や評価方法の周知。また、家庭学習、特に復習の仕方等の説明。

○少人数習熟度別指導

- ・加配教員を活用し、2年生の数学科、3年生の英語科で少人数習熟度別指導を行っている。

○放課後学習：学習支援の実施。

- ・市のまなびんぐサポート事業を活用し、週2回、3年生の希望者に対して英語科と数学科の自学自習のサポートを行っている。
- ・定期テスト前には、放課後学習会を開催している。
- ・長期休業中に、補充学習に取り組んでいる。

○家庭学習の定着：「家庭での宿題、復習などの自学自習」のシステム化。

- ・「平成30年度 目標評価規準の9教科一覧及び、家庭学習の手引き」の配布。
- ・全学年で「中学生の生活・学習ノート」を使って、朝学習とリンクさせて、自学自習に取り組んでいる。
- ・全学年で「週末宿題」を課し、休日の家庭学習の定着につなげている。

○通信の発行

- ・教職員向けに通信「エンパワメントニュース」を発行し、取組の紹介や情報提供、アンケート、学力調査の結果分析の共有し、校内研修のまとめ等を掲載して共通理解を図っている。

○生徒会や各種委員会との連携

- ・文化委員会と副委員長が連携し、全校一斉漢字小テスト実施している。
- ・文化委員会が図書室の整備と読書活動推進の啓発を行っている。

○校内研修 5月 1年生対象の基礎学力調査の結果分析と課題

「すうがく がんばりmath」の取組

「相手に分かりやすく表現する・書く力」の指導と定期テストでの評価について

6月 授業づくり【教師対象及び生徒対象アンケート結果分析】

「すうがく がんばりmath」の取組みの検証と改善

平成29年度チャレンジの結果分析から課題の共有と改善

7月 ICTの活用と実践報告

パソコン研修（2回）

8月 対話の場面の充実：「ペアワーク」の指導方法について

11月 研究授業と協議：主体的、対話的で深い学びの実現に向けて

◎これからの取組

○『授業 三中スタイル』における授業改善の重点取組の推進

○校内授業研究の実施 2月 研究授業と協議（講師招聘）

○授業における書く活動や対話場面の実践状況の交流と改善

○「すうがく がんばりmath」の取組の検証と改善

○教職員対象授業アンケート及び生徒対象学習アンケートの実施と分析結果の活用

12月 2学期の各種アンケート実施と結果分析

3月 3学期の各種アンケート実施と結果分析

○少人数習熟度別指導について、生徒対象アンケートの3回実施（6月、11月、2月）と取組の検証

○平成30年度全国学力・学習状況調査、及び1年・2年・3年チャレンジテストの結果分析の活用

11月 全国学力・学習状況調査の結果分析の共有と授業改善

3月 チャレンジテストの結果分析と共有と授業改善

○家庭学習の定着の課題に対して

- ・週末宿題や「中学生の生活・学習ノート」を使った自学自習の取組を活性化させる。